

2021年度

第160号

# 光の子

ミッション委員会活動報告書

# ～学長メッセージ～

「患難・忍耐・練達・希望」(ローマ 5:3～5a)

学長 樋口 紀子



聖書に「患難は忍耐を生み出し、忍耐は練達を生み出し、練達は希望を生み出す」(ローマ 5:3～5a)とあります。

これは大学で体育を教えていたある先生が一番好きだった聖書の言葉です。その先生が礼拝のメッセージを担当する時はいつもこの聖書の箇所を選んでいました。その先生は中学校からずっとバレーをやっていた先生で、大学時代には「東京オリンピック」に関わった先生です。この「東京オリンピック」は昨年あったものではなく、今から 58 年前、1964 年にあったものです。

当時、全日本女子バレーボールチームは“東洋の魔女”と言われ、大変強かったソ連を破って、初めて金メダルを獲得しました。しかし、その練習は大変過酷だったようです。チームのメンバーは社会

人であったため、オリンピックまでの 2 年間、午前中は会社で仕事をし、練習は午後から日付が変わるまでだったと言われています。彼女たちはオリンピックを目標とし、毎日忍耐しながら辛い訓練を続けたのです。そうすると必要な筋肉がつき、体力もでき、加えて技術も高くなっていきます。結果、始めはできなかったことができるようになる自分に出会うのです。その自分に出会った時に、今度はやれるかもしれない、勝てるかもしれないという思いが沸き上がってきます。それが“希望”です。

その梅光の先生は、全日本女子バレーボールチームを後輩として支えた世代でした。

その先生も先輩に続けとばかりに同じような練習していたので、その先輩たちの大変さがわかり、オリンピックという大舞台で彼女たちを支えることができたのだと思います。

この聖書の言葉に出会うと、いつもその先生のことを思い出します。姿勢がよくて動作がきびきびしていた先生、毎日のように梅光学院短大や大学のバレー部の指導を熱心に行っていた先生、自分ができることを率先して誰かのためにと行動していた先生。若い頃から「患難・忍耐・練達・希望」を経験したからこそ、人にもその経験をしてほしいと思う思いと、そのために行動するという仕える思いがありました。しかも、聖書はそのような中で生まれた「希望は失望に終わることがない。」(ローマ 5:5a)と約束しています。人はどのような時であっても、患難に出会い、それを忍耐することによって、練られ、その時に初めて希望が生まれてくるのだと思います。その希望をもたらしして下さる神様を信じて、今日も患難を受け止め、忍耐し、成長する自分を楽しみにしながら前向きに歩んで行きましょう。

皆さんがこのコロナの状況が続く中であっても、希望をもって進むことができるように神様の力添えと祝福を祈ります。

## ～委員長メッセージ～

国際ビジネスコミュニケーション専攻 3年 塩田 花梨

2021年度もミッション委員会の活動にご協力いただき、ありがとうございました。今年度は、コロナ禍での柔軟力が試される年でした。常に変化する状況の中で苦労したことが多かったですが、学びも沢山ありました。

前期は音響チームを新たに結成し、音響・配信設備の管理徹底に取り組みました。学院礼拝のメイン会場がステージスホールに移った際も、CROSS LIGHT への全館放送、Teams でのオンライン配信をし、離れた場所においても礼拝の時間を共に過ごせる環境を守り続けることができました。

さらにクリスマス礼拝は、礼拝の様子を配信する際にカメラワークを工夫して、オンラインで聴講される方にも楽しんでもらえるよう工夫をしました。予期せぬトラブルもありましたが、貴重な経験であり、かげがえのない学びとなりました。委員のメンバー1人1人が真剣に活動に取り組んだことによって素晴らしい礼拝となりました。

最後に、今年度も新しい仲間が委員会に加わり、活動を通して豊かなキリスト教教育を共に受けることができたことを嬉しく思います。教職員の方々をはじめ、多くの方に見守られ支えられ、無事に任期を終えることができました。心より感謝申し上げます。

来年度もミッション委員会の活動、キリスト教行事を楽しみにしていきましょう。



## ～1年生のメッセージ～

ミッション委員会に入り、慣れない仕事が多く不安でいっぱいでしたが、先輩や教職員の方々のおかげで1年間楽しく活動することができました。急なオンライン授業で仲間と顔を合わせることができなくなることやコロナ禍の制限などの困難の中でも、協力し合い、様々な工夫を凝らすことで毎日の学院礼拝や各宗教行事等を守り、無事に終えることができました。

ミッション委員会に所属できたことに感謝しています。

児童教育専攻 1年 中嶋 乙翔 / 幼児保育専攻 1年 井手 佳倫

## ～カイロス～

私達カイロスは、昨年度に引き続きコロナの影響で中々思うように活動をする事ができませんでした。前期と後期それぞれに一回ずつ学院礼拝で歌う機会を頂いた際には、メンバー1人ひとりが自宅で練習を行い、礼拝当日に全員で歌声を合わせるという方法で賛美の発表に臨みました。

不安に思うことがありましたが、マリ先生をはじめとした沢山の方々に支えられて無事に歌うことができました。大変な中でも、多くの方と共に賛美することができたことが本当に嬉しく、有難かったです。

来年度も、心を合わせて讃美することができるように祈っています。

英語コミュニケーション専攻 2年 小笠原 陽菜





2021 年度

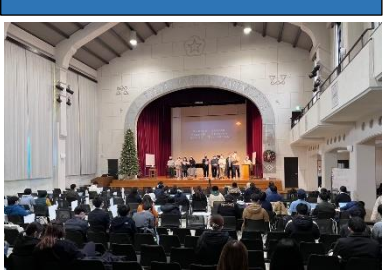
# ミッション委員会の活動

## コイノニア



毎週月曜日 18 時からコイノニア(会議)をしています。楽しく真剣に、学院礼拝や行事の運営向上のための話し合いをします。

## 礼拝運営



委員会の主な活動は、毎日の学院礼拝の運営です。司会やパワーポイントの作成・操作、音響管理など、委員メンバーで運営しています。

## 行事運営



ワークショップやクリスマス礼拝などの全てのキリスト教行事を運営しています。(各行事の詳細は後ページにてご紹介します)

## 献金活動



2つの団体を通して、8名のチャイルドを支援しています。「サマリアデー献金」として、皆さんから支援を頂いています。今年度もご協力ありがとうございました。



## ～ミッションデー～

国際ビジネスコミュニケーション専攻 3年 塩田 花梨

日時:2021年6月21日(月) 13:10～14:20

会場:CROSSLIGHT、本館、図書館ホール

講師:虹ヶ丘キリスト教会

ジョナサン・ルーシ牧師

タイトル:「天に至る道」



2021年度の梅光ミッションデーは、コロナウイルス感染症対の観点のもと換気・消毒の徹底に加え、専攻ごとに会場を指定することで3密を避けて安全に行うことができました。

講演では、「天に至る道」というお話をしてくださいました。

講演後の懇親会では、講師の先生への質問タイムを通して親交を深めることができ、笑顔あふれる時間を過ごせました。



## ～ワークショップライブ～

日本語・日本文化専攻 2年 谷歩 葵

日時:2021年11月8日(月) 18:00～

会場:オンライン

CL-N, CL-L, CL-K

ゲスト:Paul M.先生



2021年度ワークショップライブは、コロナウイルス感染症を考慮して殆どの参加者がオンラインで聴講をしました。

今回のゲストである Paul M.先生は、日本を愛する韓国のピアニストでアメリカやシドニーのオペラハウスなど、世界各地でコンサート活動を展開しています。

ワークショップライブでは日本への愛をたくさん語ってもらい、学生からの質問に答えるコーナーもありました。前年度のように参加者全員で賛美をすることなどは叶いませんでしたが、Paul M.先生のピアノ演奏を聴くことの出来るとてもいい心地の良い時間でした。また、Paul M.先生の奥様の賛美もあったことでより一層素敵なものを聴くことができました。



# 2021 年度 献金報告

サマリアデー献金			その他の献金		支出 (4月~3月)		
2021 年	6 月	88,892 円	クリスマス献金	82,593 円	C.F.J	144,000 円	
	7 月	50,000 円	カフェドリンク代 (前期)	77,250 円	W.V.J	324,000 円	
	10 月	65,016 円					
	11 月	46,029 円					
	小計	249,937 円	小計	159,843 円			
2021 年度献金額				合計	409,780 円	合計	468,000 円







## ～クリスマス関連行事報告～

英語コミュニケーション専攻 1年 大野日菜子

### 点灯式（11月25日）

新しく出来たセントラルパークでクリスマスツリー点灯式が行われました。寒い中多くの方が参加して下さいました。

Baiko Quireの方々の「きよしこの夜」「ベツレヘムのまち」の賛美が式を彩りました。



### スペシャル・アドベント・チャペル

（12月3日、10日）

イエスキリストの降誕を待ち望む期間であるアドベントを特別な礼拝という形で祝いました。

このチャペルのために集った特別なメンバーでクリスマスやアドベントに関する賛美を届けました。

礼拝の後には、「喜びを分かち合うプレゼント」として委員が作成したメッセージカード付きのお菓子を配布しました。





## ～クリスマス礼拝～



今年度のクリスマス礼拝は、コロナウイルス感染拡大防止の為、ライブ配信を行いながらオンラインで実施されました。

会衆賛美「荒野の果てに」は、Baiko Quire（教職員賛美チーム）の方々が賛美リードをしてくださり、オンライン上で見ている学生も、一緒に歌いながら参加できたのではないかと思います。

ミッション委員によるキリストの降誕劇ページェントは、「クリスマス・キャロル」の物語を基に、クリスマスの意味をテーマに委員がストーリーを書き下ろしました。コロナ渦での工夫として、ステージには全キャストではなくメインキャスト2人のみの出演になりましたが、その他のキャストはステージ裏からマイクを使って声だけで出演しました。また、ステージには委員手描きの背景イラストを映し、見ている人に場面が伝わりやすいようにも工夫されていました。

青山学院大学・大学宗教部長の塩谷直也先生によるクリスマスメッセージ「あなたに会えてうれしい！」は、カメラを駆使されながら、素敵なお話を聞くことができました。

音楽の授業履修学生と Baiko Quire による賛美「天にはさかえ」は、3カ月の練習を経て完成させた圧巻の合唱となり、賛美のハーモニーがホールに響き渡ってクリスマス礼拝は幕を閉じました。

全プログラム、カメラワーク等の様々な工夫を行ったため、見ていて飽きないライブ配信になったのではないかと思います。配信中の機械トラブルも多くありましたが、対面ではなくても参加している全学生・教職員がクリスマスの意味について考え、救い主の降誕を一緒にお祝いすることができて、今年度も素晴らしいクリスマス礼拝となりました。





## ～学院礼拝について～

幼児保育専攻 3年 福嶋 達人・宇山 光

2021年度の学院礼拝は、大学のクォーター制度の導入やステージスホールでの礼拝再開など、様々なことが大きく変化した年でした。今年度の私たちは、環境が幾度も変わる中で毎日の礼拝運営を行ってきました。

クォーター制度が導入されたことによって昼休みという時間ができ、礼拝も昼休みの中で行われることになったため、昼食をとりながら礼拝を聴講する学生・教職員が多くなりました。また、祝日も自宅でのオンライン授業を受けることとなり、礼拝は動画を流してオンラインで行われました。その際に流す動画の録画や編集を事前に行うことで、礼拝の時間を対面でなくても共に過ごせる環境を実現させました。オンライン礼拝用の動画作成は委員と職員で協力して行いました。

礼拝の会場が、今年度の秋からステージスホールに変わり、ステンドグラスの輝きやオルガンの響きが懐かしい学院礼拝が再開しました。賛美リードを入れたり、ピアノやギターの演奏、複数人での賛美など、様々な形での礼拝ができる環境が再スタートし、それと同時に礼拝に参加する人も増えました。また、ミッション委員が有志で礼拝発表する機会も与えられ、「支援チャイルド紹介」「好きな聖書箇所・讃美歌」というトピックを基に、自分の体験談を交えた発表に臨みました。多くの方が礼拝に興味を持ってくれるきっかけを作ることに加えて、発表者自身も聖書を深く読み返す機会となり、キリスト教のよりよい理解や学びに繋がりました。

昨年度に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な配慮を行いつつ礼拝を運営してきました。私は礼拝班長として、少しでも多くの方が礼拝に参加してくれること、そして、どうしたら礼拝を楽しんでもらえるか、「礼拝に参加したい!」と思ってもらえるかを常に考えました。委員のメンバーだけではなく、教職員の方々と連携して、礼拝の運営方法を一つ一つ見直し、話し合いを重ねることで礼拝運営のブラッシュアップに取り組みました。

今年度は、一人一人が礼拝に対して楽しむことができた一年だったと思います。私たちミッション委員は、聖書を開き、賛美し、神様に祈り、喜びをもって活動することが大切だと改めて気づくことができました。礼拝は賛美とメッセージを通して、神様のことを知り、自分と向き合い、そしてお祈りをする大切な時間です。私は、これからも礼拝を通してより多くの学生・教職員の方々が神様のことを知り、運営を行うミッション委員も含めた全ての人に神様からの恵みが与えられますよう、心から祈っています。



**今年度は、たくさんのご支援、ご協力を  
ありがとうございました。**

**来年度もどうぞよろしくお願い致します。**